

教育連携講座 和泉元 千春 教授

外国語／第2言語としての日本語教育に
関する実践研究

キーワード 外国語・第2言語としての日本語教育/ 異文化間能力/ 外国人児童生徒等教育

どのような研究をなぜ行っているか

私の専門は日本語教育学です。日本語教育学とは、日本国内外で外国語あるいは第2言語として日本語を学ぶ人たちを対象とした言語教育を対象としています。これまで以下の課題に関する実践研究に取り組んできました。

1) 言語教育における異文化間能力育成の実践研究

近年、外国語教育における学習目標として、対象言語のスキル獲得などの実用的な目的に加え、異文化間目的の必要性に関する言及が多く見られるようになりました。特に欧州では社会が有する言語的マイノリティの包摂という社会的要請に応える必要もあり、これまでの言語学習における「対象言語の母語話者を学習到達モデルとする」という考えに代わって、コミュニケーションにおいて個人の中に持っているすべての言語的、文化的レパートリーを使うことに関する肯定的な価値観がもたれるようになりました。私の研究では、多様な言語的・文化的背景を持つ学習者が自身の言語的、文化的レパートリーを意識し、使用する学習環境の中で、異文化間能力に関わってどのような学びが生まれているのかを探求しています。

2) 外国人児童生徒等教育を担う教員の養成・研修に関する研究

日本国内の多文化化に伴い、日本語指導が必要な児童生徒の数も増加しており、その教育に携わる教員等の養成・研修が喫緊の課題となっています。そこで、文部科学省委託事業「外国人児童生徒等教育を担う教員に必要な資質・能力モデル（日本語教育学会2020）」の開発に関わった経験を活かし、外国人児童生徒等教育を担う教員の養成・研修に関する実践と研究を行っています。例えば、多文化社会における資質・能力に関するより汎用的な理論・概念（異文化間コンピテンシーの分析モデル（Deardorff 2006）等）と比較し、外国人児童生徒等教育を担う教員の資質・能力の特徴の可視化を試みました。

研究成果をどのように活用し、どのような貢献ができるか

言語教育における異文化間能力育成に関する実践研究も、外国人児童生徒等教育を担う教員の養成・研修に関する研究も、言語教育におけるコミュニケーション能力の概念を問い直し、「ことば」を鍵として多様な背景をもつ他者同士をつなぐことを目指した言語教育の実現に貢献できると信じています。

これまでの連携研究や社会貢献活動の実績

- 文部科学省文部科学省総合教育政策局国際教育課外国人児童生徒教育企画係 外国人児童生徒等教育アドバイザー（2022年度～現在に至る）
- 奈良県教育委員会 奈良県地域日本語教育体制整備事業に係る総合調整会議委員（2021年9月～現在に至る）
- 日本語教育学会「文化庁委託事業 日本語教育人材の研修プログラム普及事業（3）日本語教育人材の研修 プログラムの活用・普及・普及④児童生徒等に対する日本語教師【初任】研修」（2020年度 九州・沖縄ブロック講師，2021年度 近畿ブロックコーディネイター，2022年度 コーディネイター）
- 日本語教育学会「文部科学省委託事業 外国人児童生徒等教育を担う教員の養成・研修モデルプログラム開発事業」（2017年度 調査研究作業部会委員，2018年度 モデル検証開発部会委員，2019年度 調査研究部会委員）